

いじめを防ぐ心を育てる 総合単元的な道德学習の 実践

新潟県胎内市立黒川小学校

つちだのぶや
土田暢也

【実践の内容】

以下のような研究仮説を立て実践した。

〈仮説〉 子どもたち一人一人が、差別の問題を自分自身の問題として考えられるような道德授業を進める。加えて、道德授業での学びと関連させた教育活動（国語、学級活動）を意図的、計画的に実施すれば「いじめを防ぐ心」が育つであろう。「いじめを防ぐ心」とは

- ① 人の心の痛みや切なさを感じ取り、弱い自分を見つめ、それを克服し、差別に立ち向かおうとする実践力を高めること
← 道德授業（いじめの四層構造に視点を当てた授業実践）
- ② 一人一人が差別をなくしていくための具体的な方法を身に付けること ← 国語（いじめ防止作文）
- ③ 自他のよさに気づき、互いに認め合おうとする態度を養うこと ← 学級活動（エンカウンター）

【論文内容の紹介】

1 研究内容及び方法

- (1) 人の心の痛みや切なさを感じ、差別に立ち向かう実践力を育てる道德授業の有効性を明らかにする。
- (2) 道德授業での学びと関連させた国語、学級活動の実践が、「差別を許さない心」「互いに認め合う態度」の育成に有効であったかを明らかにする。

上記の研究内容(1)(2)を検証するためK男を抽出児に選定し、授業記録、学校生活の言動などから、K男と周囲の児童の変容の様子

を明らかにした。

2 研究の実際

「いじめを防ぐ心を育てる総合単元計画」を作成し、道德授業と国語、学級活動等との関連を図り、年間を通して計画的に授業を実施した。

〈実践1〉 道德授業

全国中学校人権作文コンテストの入選作品を資料として活用した。自分の兄が転校した学校でいじめにあい、アレルギー体質で病弱な体といじめによる精神的な疲労のため、二度と起きあがることのできない体になってしまったという実話である。子どもたちの多くが、いじめに苦しんだあげく、音も光も自分の人生さえも失うことになった兄の悲痛な叫びと、その兄を見つめる妹の、いじめや差別を絶対に許さないという強い思いを感じ、いじめを許してはいけないという心情を表現していた。

〈実践2〉 国語（作文）

「いじめをなくすためには」というテーマで、全員が作文を書いた。道德授業で学んだこと、自分の体験から感じたことなどを互いに発表し合った。

〈実践3〉 学級活動（エンカウンター）

互いの存在を認め合う場を設定した。

3 今後の展開

いじめの問題は、今回のような実践だけで解決できるような単純な問題ではない。優しさや思いやりに溢れた、心を洗われるような感動的な資料開発を進めること、被害者の言動を問題にするあまり、勇気を出せない被害者も悪いといった風潮にならないようにすること、加害者もまた被害者といった意識が高まり、加害者を擁護するような雰囲気にならないようにすることなどに十分配慮していく必要がある。そして、道德授業とのかかわりをさらに明確にした「総合単元計画」を組織していくことにも挑戦したい。また、教師と子どもとの信頼関係が基盤になる学級経営といった面からも見直していく。